

# 「新川の掘替」完成までの道のり 秦野 秀明

延宝八年(1680)十二月、当時の元荒川は袋山村の周囲を曲流していたが、その元荒川に沿った五ヵ村である袋山村を含む、忍間(恩間)村、大竹村、上間久里村、下間久里村は、幕府により各地に派遣された巡見使に対して、以下の趣旨の訴状(延宝八年十二月『袋山細沼家文書』明治大学蔵)を提出しました。

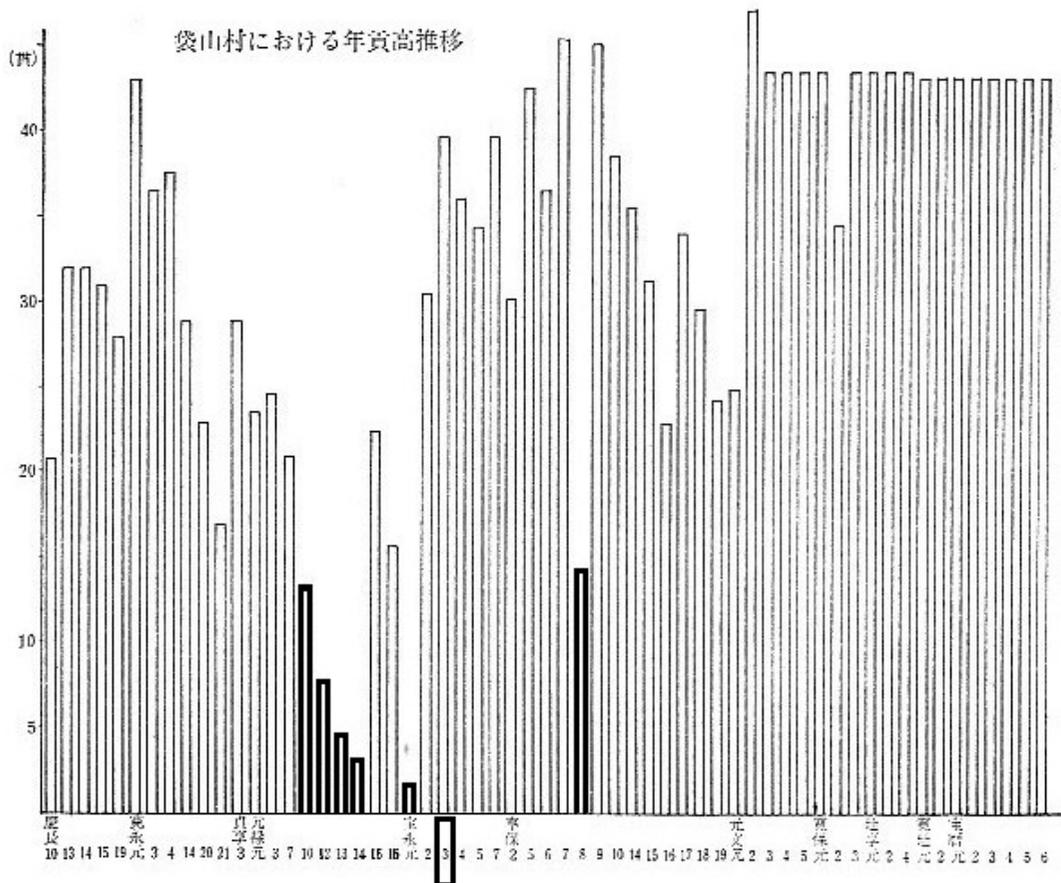
- (1)袋山村の周囲を元荒川が曲流していることに加えて、近年、瓦曾根溜井に石堰が設置されたので、川の水位が上がり、さらに逆流することもある。
- (2)袋山村の悪水(排水)を落す場所は、隣村の荻島村の村内にあったが、荻島村が土屋相模守の領地になってから、袋山村の悪水(排水)を落す場所を塞がれ、袋山村は悪水(排水)を落す所がなくなってしまった。
- (3)袋山村の被害は、元荒川の中でも大きいので、以前、代官に「新川の掘替」を願い出た結果、検使が見分に来ている。

しかしながら、「新川」が完成するのは、延宝八年(1680)十二月に訴状を提出してから 26年後となる宝永三年(1706) (『新編武蔵風土記稿』) または、27年後となる宝永四年(1707)二月 (『西方村旧記』) と、結果的に随分と時間がかかっています。

このように、開始されるまでに随分と時間がかかっていた「新川の掘替」を、26年後に決定した「大きな理由」のひとつに、「**災害復興**」という目的があったのだと思います。

14年後～19年後となる元禄七年(1694)～元禄十三年(1699)には、元荒川の周辺河川において「改修」が始まっていましたが、21年後の元禄十五年(1701)十月二日の「**元荒川の破堤**」(元禄十五年十月『袋山細沼家文書』明治大学蔵)、22年後の元禄十六年(1702)十一月二十三日の「**元禄大地震**」による「元荒川の破堤」(元禄十七年二月『袋山細沼家文書』明治大学蔵)、袋山村を含む隣村には被害を記す「史料」は残っていませんが、24年後の宝永元年(1704)七月の「**関東洪水**」(『越谷市史 1975』)まで、「新川の掘替」を開始する宝永三年(1706)の5年前から立て続けに「大災害」が起こっており、この「大災害」からの「**災害復興**」こそが、「新川の掘替」の「本来の目的」であったのではないのでしょうか。

袋山村は、「新川の掘替」以後も、上流の村々の悪水(排水)が、「**古川**」に落とされ続けたことによって、耕地への被害は継続するのですが、「新川の掘替」以前に、「年貢高」の著しい低下に悩んでいた不安定な耕地の状況が、「新川の掘替」以後には、一時的な「年貢高」の低下が見られるものの、「新川の掘替」以前のような著しい低下は見られず、比較的安定した「年貢高」の推移を見せることから、「**災害復興**」は一応の成果があったのではないかと思います。



竹内 誠(1975)『越谷市史 第一巻 通史上』越谷市 543 より引用・加筆

延宝八年(1680)十二月 袋山村外四カ村による「新川掘替」願
元禄七年(1694)～元禄十三年(1699) 14年後～19年後 幕府による、元荒川、星川、古利根川の改修
元禄十五年(1701)十月二日 21年後 元荒川破堤
元禄十六年(1702)十一月二十三日 22年後 「元禄大地震」による元荒川破堤
宝永元年(1704)七月 24年後 「関東洪水」 「新川掘替」願
宝永三年(1706)／宝永四亥年(1707)二月 26年後／27年後 普請所見分 「新川掘替」の完成
宝永四年十一月二十三日 「富士山宝永噴火」(此年十一月大砂降ル三寸ほど) 『産社祭礼帳』『越谷市史 第四巻 史料二』越谷市 865

堀替後の袋山絵図(享保11年)



竹内 誠(1975)『越谷市史 第一巻 通史上』越谷市 540 より引用

- 注
- 「延宝八年十二月 袋山村外四カ村新川堀替願」『越谷市史 第三巻 史料一』越谷市 510, 511
  - 『新編武蔵風土記稿』巻之二百三 埼玉郡之五 越ヶ谷領  
 (復刻版 蘆田伊人編(1963)『新編武蔵風土記稿』第十巻 雄山閣 149)
  - 「宝永四亥年 元荒川通萩嶋村地内ノ切、曲り目堀替其外堀替心得方」  
 『西方村旧記』『越谷市史続史料編(一)』越谷市 176, 177
  - 「元禄十五年十月 袋山村普請場書上」『越谷市史 第三巻 史料一』越谷市 512, 513
  - 「元禄十七年二月 袋山村水除提普請願」『越谷市史 第三巻 史料一』越谷市 513
  - 竹内 誠(1975)『越谷市史 第一巻 通史上』越谷市 1069